

COLUMN

連載 118

仕事について考える

札幌大谷大学社会学部
教授 平岡祥孝

コロナ禍と共に最も寒い季節を過ごすこととなります。何よりも体調管理が肝要ですね。

新年早々、ある地元企業の経営者から相談を受けました。氏は裸一貫から身を起こして起業し、会社を現在の規模にまで育て上げた、いわゆる叩き上げの創業者オーナーで、私とほぼ同世代です。話を聞いてみると、若手社員が仕事に対して冷めている印象を持っていると、氏は思っており、ハングリー精神が欠けていると危機感が募っているようでした。

そして、氏から問いかけられました。「私はマイカーやマイホームという豊かさを手に入れたがために、若い時には仕事に明け暮れ、がむしゃらに頑張ったんですよ。だけど、今の若い連中は、私の若い頃の話にはまったく興味を示しません。何故なのでしょう。また、どうやら結婚も面倒なようです。家族を背負って必死に働く気も無いようだし、困ったものです。いったいどうすれば、あいつらはやる気を出すのでしょうか」と。

「今の若い世代は、物質的には豊かな社会で育ってきました。言い換えれば、職業社会の一員になる前にもうすでに、モノがあふれた時代を生きてきています。ですから、彼ら彼女らの所有欲を刺激して、各々のワークモチベーションを上げようとしても、水泡に帰すことになる確率は高いのではないのでしょうか。」

それに続けて、私は、マズローの欲求5段階説を紹介しました。それは米国の心理学者アブラハム・マズローが、人間の欲求をピラミッド型に5つの階層として理論化しました。下から順に、①生理的欲求、②安全の欲求、③社会的欲求、④承認欲求、⑤自己実現の欲求です。私は学生の学習モチベーションを自ら引き出させるために、学生を指導・支援する際には、学生の承認欲求と自己実現の欲求を満たす方向で、熱意と誠意をもって向き合うように心がけています。2つ例を挙げましょう。

1つ目は個人面談です。卒業論文指導では徹底的に個人面談を繰り返して、修正すべき箇所や加筆が必要な箇所などを一つ一つ確認していきます。その際、学生自身が指摘や助言を納得して受け入れるまで、理由や根拠を示して丁寧に對話することが絶対条件であると、私は考えます。次回の面談の際に改善されているれば、「うん／＼とまで調べたね」「読みやすくなったよ」等々、具体的に指示して誉めます。卒業論文作成の



【ひらおか・よしゆき】札幌大谷大学社会学部教授。英国の酪農経営ならびに牛乳・乳製品の流通や消費を研究分野としている。高校生・大学生の就職支援やインターンシップ事業に携わってきた経験から、男女共同参画、ワーク・ライフ・バランス、仕事論、生涯教育などのテーマを中心に、講演やメディアでも活躍。

過程において、学生に寄り添って勉強しながら、ささやかな成果を認めてあげることから、少しずつ自信がついていくだけでなく、主体性のみならず持続力・継続力も養われていきます。

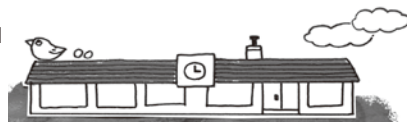
2つ目は何らかの役割を与えて任せることです。私はフィールドワークに際しては、チームプレイで活動することを指示する以外は、指名したりリーダーに活動自体を一任します。

もちろんミーティングには私も参加して、準備学習と事後整理の大切さだけは伝えるものの、リーダーを中心に自主的にチーム運営が行なわれるように見守っていくだけです。各自が何をすべきかを自覚すれば、責任感をとまなかった行動が出来ます。「すばらしい発表だったね」と、労をねぎらうことは当然。達成感や充実感を体感したことは財産になります。

仕事のやりがいを与えることが出来る上司は、部下を動かすことが出来るのでは。

Tokomuro Lab 通信 vol. 11

浦幌町字常室 51-1
Tel: 015-578-7580



【開校時間Opening Hours】

定休日 月曜・火曜・水曜

ラボ 10:00-17:00
キッズスペース(無料)やフリースペース、コワーキングスペースをご利用いただけます。校内の見学やイベント開催のご相談 etc... 承ります！ぜひ遊びに来てください(AOA)

カフェ 土曜、日曜
11:30-15:00・ランチタイム
(14:30 ラストオーダー)
校庭を眺めながら、うらほろ食材の美味しいお料理でリフレッシュ。珈琲一杯からお気軽にどうぞ♪

こんにちは！地域おこし協力隊・常室ラボ担当の青木です！
今回のTOKOMURO Lab通信より三村くんから引き継ぎ、わたしが担当させていただくことになりました。どうぞよろしくお願いたします！！
現在冬季期間中のラボでは春に向けて企画の準備を進めたり、校内のメンテナンスを強化しています。
なかなか人を集めるようなイベントや本来おこなう予定だったラーニングジャーニー（町内研修）も出来ないという大変もどかしい状況ではありますが、来年度に向けて、ソーシャルディスタンスはしっかり守ったうえで、皆さまとの関わりはもっと密になっていきたいと思っています！！引き続き、常室ラボと常室ラボメンバーをどうぞよろしくお願いたします！

町長室から

令和3年の新年は素晴らしい初日の出がみられた穏やかな三が日でありましたが、昨年はコロナコロナで気が休まらない1年で、町内の各産業において大きな影響を受けただ年でもありました。

恒例の消防出初式は新型コロナウイルス感染症の影響を考慮して中止となりましたし、年末から新年にかけての感染者数は一段と増加傾向であり、医療崩壊とも言われている中で国は特措法に基づく緊急事態宣言を1都3県に出すなど、まだまだ気が抜けない年となりそうです。

早い国では新型コロナウイルスのワクチン接種が始まっています。日本での接種はまだ決まっていますので、町民の皆様にはこれまで同様にマスク着用、手洗い、咳エチケットなどの北海道スタイルを遵守して行くことで、感染のリスク軽減を図っていただかなければなりません。

世界ではこれまでアメリカンファーストで世界調和は二の次

だったアメリカのトランプ大統領が交代し、時代の潮流も大きく潮目が変わろうとしています。

菅首相は今年の年頭の所感の中で『コロナ感染防止と経済回復に総力を挙げるとともに、我が国の新たな成長の源泉となるのは「グリーン」つまり環境問題と「デジタル」である』と述べ、『新型コロナウイルス感染症を機に地方への関心が高まるなか、デジタル化を進めて地方へ人の流れを生み出す』と述べました。

昨年の安倍首相の年頭の辞では「1億総活躍社会」と「少子高齢化社会への挑戦」で「地方創生」が語られず、すっぱり抜けていた「地方への人の流れ」が復活したのはコロナ効果ともいえます。

令和3年の国家予算(案)は新型コロナウイルス感染症で日本経済は大打撃を受けており、コロナ対策のための予備費5兆円を含んで3年連続して100兆円越えの106兆6097億円(前年比プラス3.8%)となりました。

地方交付税交付金は国と地方税収の大幅な減を見込んで17兆4000億円の前年対比9000億円の増となりましたが、実質的に令和2年度と同程度となりました。

浦幌町では4月から新たな10年を見据えた「浦幌町第4期まちづくり計画」が始まります。

浦幌町としては地方交付税が最近大きく削減されている状況から、「第4期まちづくり計画」の重点プロジェクトを中心としながら、財政健全化のもと令和3年度の当初予算編成を行います。国家予算を見ても相当厳しいものとならざるを得ないところであります。

しかし、新型コロナウイルス感染症で浦幌町内経済は大きな影響を受けており国のアフターコロナの経済対策を見極めながら補正予算などで臨機応変に対応してまいります。

非常に厳しい時代ではありますが、大都会のリスクが改めて認識されて、テレワークの浸透などで田舎

暮らしへと目が向けられる変化の時でもあります。

浦幌町にも多彩な人材が都会から移住し、町民とともに地方創生への取組を進めています。

今後はアフターコロナを見据えて、町経済の回復を考慮した施策を進めながら、ピンチをチャンスに変える変化の時に対応する町づくりを進めていかなければなりません。

昨年は町内での交通事故死が生じておりませんが、交通事故撲滅はみんなの願いでありますので、これからも浦幌町交通安全協会と協力して交通安全に向けて啓蒙活動を進めていきます。

令和3年が浦幌の将来を確かなものとしていくために、町民の皆様のご協力をいただきながら協働の町づくりを、確実な一歩を進めるように全力を尽くしてまいります。

浦幌町長 水澤一廣